

「ああ、いいのくれねえわい、犬なのいじめでんの可愛想だものこんなめんげ犬、まあそんじえいいわい。気にななんねっていいだからあ、早く寄つてはあ夕飯食わつしえ」

「そうが悪りがつたなあ」

なんて言つて来たあど。

してその犬もだんだんでつかぐなつてきて、裏の畑お爺ちやどお婆ちやで仕事しでだつ  
けが、犬が、

「ワンワン、ワンワン」

てほえんだど。

「何だべな」

ど思ったつけが、その犬がここ掘れここ掘れつつようなごとしので、お爺ちや掘つてみ  
だあど。したつけが中がら大判小判がザックザック出できたど。

「あらら大したもんだごと」